



長崎短大で初のシンポ

留学生の母国教育知ろう

教育について考える国際シンポジウムが24日、佐世保市椎木町の長崎短大（安部恵美子学長）で初めて開かれた。韓国の高校の教育事情をテーマに講話やパネル討議があり、出席者が認識を深めた。

同大と九州の短大9校でつくる短期大学コンソーシアム九州が、学内に在籍する留学生の母国の教育事情を知り教育に生かそうと開いた。韓国・ソウル近郊の高校の校長ら10人を含め教育関係者計約100人が集った。

韓国高校の校長ら招き

後、韓国の若者の職業選択の意識の変化について討議。ソウル観光高校の趙金錫校長は「最近の生徒は汚い、危険、さついで業務を回避する傾向にある。正しい職業観を持って夢を実現できるよう、教育者の役割が重要」と述べた。



講演する崔曾在・前京畿道高校校長協議会理事

韓国の高校事情紹介

長崎短大 国際シンポ初開催

長崎短期大は24日、「韓国の高等学校の教育事情」をテーマにした国際シンポジウムを佐世保市椎木町の同短大ホールで開催した。同短大で国際シンポが開かれるのは初めて。

海外の教育動向を把握し、留学生の増加につなげる狙い。長崎短期大が

指導教員を配置するほか、カリキュラムを理数系に特化するなど学校側に自由な裁量権を与える「自律型公立高校」などの取り組みが進んでいることを紹介した。

一方、日本へ留学する韓国の中学生が減少しているとして「日本への留学を希望する高校生は多い。受け入れ枠を増やすなどの取り組みを期待したい」と述べた。

崔氏について基調講演。

崔氏は来年度までに全国の中学校に専門の進路